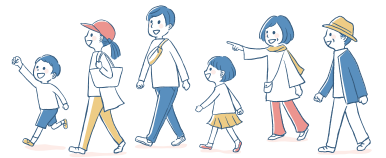




ともに考える



越谷の未来と、私たちの責任

サンシティ再整備は 今後の財政負担と併せた検討を

南越谷にある複合施設「越谷サンシティ」は、建設から40年以上が経過し、施設の老朽化と再整備の必要性が課題となっています。

当初、市は約300億円をかけた「全面建て替え」案を検討していましたが、2023年、財政負担の大きさを理由に、約150億円規模の「ホール棟の一部リノベーション案」へと方針転換しました。

しかし「このような大規模事業こそ市民の声を十分に反映すべきではないか」という声が広がり、議会で『市民



参加で方向性を決めてほしい』との市民請願が採択されたことにより、今年度改めて市民や専門家による審議会が行われています。

ネットは、全面建て替えからリノベーションへの方針転換は妥当だと評価する一方、施設のあり方やまちづくりには徹底した市民参加が欠かせないと考えます。

現在、サンシティの所有・管理は越谷市が行っており、年間約1億5千万円の維持管理費がかかっています。今後、他の公共施設の建て替えやインフラ更新といった大型事業による財政負担も見込まれるなかで、将来を見据えた検討が求められます。

2025年～2034年 主な事業と財政負担

新本庁舎	32億円	小中一貫校	107億円
第三庁舎	1億円	GIGAスクール端末更新	13億円
大袋地区センター	11億円	小中学校体育館空調設備	64億円
川柳地区センター	10億円	小中学校特別教室空調設備	26億円
大沢地区センター	5億円	小中学校空調設備	8億円
緑の森公園保育所	13億円	応急対策事業(ポンプ常設化等)	18億円
大袋・荻島保育所	2億円	高齢者チケットレス運賃補助	20億円
児童発達支援センター	2億円	地域スポーツセンター	12億円
桜井分署(現間久里分署)	12億円	保健センター	6億円
共同指令センター	14億円	老人福祉センターひのき荘	6億円
谷中分署	4億円	リユース負担金(プラント更新含)	229億円
合計		615億円	

地域の病院は命の砦 市立病院どう守る

1976年に開院した越谷市立病院は、救急や周産期など、不採算でも地域に不可欠な医療を担う中核病院として、市民の命と健康を支えてきました。

しかし現在、全国の公立病院の約7割が赤字といわれる中、越谷市立病院も慢性的な赤字に直面しています。2023年度は、一般会計から約18億円の法定内繰り入れを行いました、6億7220万円の純損失となりました。

新型コロナをきっかけに市民の受療行動が変化し、入院・外来患者が減少。5類移行に伴う補助金の打ち切りや人件費の上昇も重なり、経営は一層厳しくなっています。

さらに、開院から49年が経過し、建て替えが必要な時期に来ています。仮に建て替えるとすれば、費用は約500億円～600億円にのぼるとも言われています。

こうした状況を受け、市では2027年度までの収支均衡実現を目標に掲げ、さらに「越谷市立病院の在り方検討に向けた内部会議」を設置しさまざまな可能性を検討中です。

しかし、経営形態の見直しにあたり、経営効率だけで判断することには慎重であるべきです。民間委託や指定管理では、一時的にはコストが抑えられるかもしれませんが、医療の質や医療提供体制の長期的な安定性に懸念が残ります。

私たちは、市立病院を単なる赤字事業ではなく、「公共の医療インフラ」としてとらえ、持続可能な形で守り、育てていくことが重要だと考えます。市の経営改善努力とともに、医師・看護師の確保や働き方改革、そして国による財政支援の拡充が、今まさに求められています。



表以外の今後建て替えや大規模改修が必要な公共施設

・市立病院・保育所(蒲生保育所など9施設)・中学校(大規模改修)
・学校給食センター・千間台記念館ほか交流館・市営住宅再整備

※2015年～2024年の主な事業と財政負担は186億円

※赤字は現在着手している、または今年度から着手する大規模な事業

※黒字は公債費返済中の事業

※出典:第2回越谷サンシティのあり方に関する審議会配布資料より一部抜粋